

2021年の年頭にあって

一般社団法人自然科学書協会
理事長 南條光章



南條理事長

会員の皆さまにおかれましては新たな気持ちで、新年をお迎えになられたことと存じます。本年も協会活動にご理解、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

さて、申すまでもなく、昨年はコロナ禍のなかでの社会生活を余儀なくされた1年でありました。協会運営、関連事業におきましても、予定しました活動が思うように行かずに、歯がゆい1年となってしまいました。一方で、経済社会を取りまく環境は、地球温暖化による気候変動リスクが年々高まっています。そうしたことから、2050年までに温暖化ガスの排出量をゼロにする目標が表明されました。経済社会や社会生活でも実質的な取組みが求められることとなり、コロナ禍の状況と相まって、今年は新たな転換点になる1年になることと思います。

協会運営では環境状況を鑑み、10月理事会をオンライン（Zoom）で開催しました。不慣れななかでしたが、協議事項等を滞りなく承認いただきました。12月理事会もコロナ感染が増えつつあることから、オンラインに切り替えて開催し、懸案事項である「図書館の公衆送信サービス」については、質疑のやり取りに時間を要す場面もあり、オンラインでの良し悪しを体感しました。理事会に限らず各委員会でも、オンライン、ハイブリットをその時々に合わせて実施し、対応してまいりたいと思います。

本年はコロナ禍の影響が懸念されますが、5月～6月にかけて那覇市での「自然科学書フェア2021」の開催が販売・出展委員会のご協力により決定しました。都内でのフェア開催に向けましても、候補書店を選定しているところです。また、「自然科学書協会講演会」は状況によりましては、オンラインでの開催も考えられることから、引き続き委員会で検討いただいているところです。

さらに、本年は役員改選期を迎えます。1月早々に選挙管理委員会を立ち上げて、4月中旬から登録代表者の確認作業を開始し、6月の「役員候補者選考委員会」を経まして、7月の定時総会にて新たな役員体制を承認いただく予定です。社会生活や経済社会では、コロナ後を見据えて「ニューノーマル」への適応が動き出しており、協会活動でも相応の対応が必要になることと思われまます。そうした場面にも応えられる役員体制を選考いただきたいと思います。

なかなか先が見通せない不安な状況が当面続くものと思いますが、協会活動とともに出版活動でも会員間の協力や協調がより一層求められることは言うまでもありません。本年も何卒お力添えを賜りますようお願い申し上げます。年頭の挨拶とさせていただきます。

<会員社訪問 社長インタビュー No.3>

● 社長紹介 ●

【氏名】^{むらかみ かずお}村上 和夫（現職：理事（2015年～））



村上社長

● 訪問社情報 ●

【社名】株式会社オーム社（Ohmsha,Ltd.）

【創業】1914（大正3）年11月1日

【設立】1922（大正11）年9月27日

【HP】<https://www.ohmsha.co.jp/>

【主な出版分野】工学、理学

【詳細な出版分野】電気電子、情報科学、情報通信、
機械制御、建築、土木、空調衛生設備、
化学環境、生命科学、医用電子など。

■テーマ1「本について」

一 御社の沿革等をお聞かせください。

弊社は、大正3年11月、廣田精一により当時の電機学校における同窓会会誌（大正元年創刊）を改題して電気雑誌「OHM」をオーム社発行として創刊したのが始まりです。発行当時の「OHM」は定価15銭でした。以来100余年の間に約12万頁、別冊や付録なども含めると20万頁以上の記事を掲載してきました。その後、「新電気」（1947年創刊）、「電気と工事」（1960年創刊）、「設備と管理」（1967年創刊）を刊行してきました。また、書籍では大正7（1918）年2月に『百故障失策』を発行したのが最初です。その後は、電気関係のみでなく工学・理学全般を主な対象として出版活動を継続しています。

一 本が売れない時代、今後の本の可能性は？

書籍、雑誌共に電子版を発行し、その売り上げは徐々に伸びてきていますが、専門書分野においては、まだまだ紙媒体でのニーズがそのほとんどです。社会の情報伝達手段としては、紙・電子版に留まらず動画やVRなど、どんどん新たなメディアが増えてきています。出版社としては、既存メディアを大切にしながら新たな形のコンテンツ作りを目を向けて取り組んでいく必要があると思います。

一 ご自身にとって本はどんな存在ですか？ お薦めの本や愛読書などがありましたら教えてください。

子どもの頃は、夏は野球、冬はスキーに夢中のスポーツ少年でしたので、いわゆる“本の虫”というタイプではありませんでしたが、本を読むこと自体は好きでした。物心ついたころに読んだ本で記憶に残っているのが『少年ケニヤ』（※山川惣治による絵物語。産業経済新聞での連載後、書籍はもちろん、漫画、映画やドラマ、アニメ化もされた名作）で、冒険の夢が広がりました。また、『なぜだろうなぜかしら 理科の学校』は自然界のたくさんの不思議に触れることができ、繰り返し読んでいましたね。

本には、心を豊かにする本、また知ることによって喜びを与えてくれる本があると思います。自然科学書協会会員社の発行されている本は後者が多いのではないのでしょうか。

経営に携わる立場になってからは、私自身の非常に弱い心を慰め、また奮い立たせるパワーを求めて、稲盛和夫さんの著書をよく読みます。『実学』『燃える闘魂』『心』など、稲盛さんの言葉には強い意志と勇気、そして人への温かな思いやりを感じます。読むたびに稲盛さんに叱られてるようで反省しきりです。

■テーマ2「オーム社について」

一 社員の男女構成比は？

全体で70名ほどの小ぶりの会社ですので社員同士のコミュニケーションも良いのではないかと考えています。社員の男女比をみると女性が4割で、女性の管理職も活躍していますし、昨年当社初の女性役員も誕生しました。それぞれの特性を生かして活躍してもらいたいと思います。

一 現在の社員やこれから入社してくる若い人への期待や希望は？

新入社員には、必ず「今の自分に満足することなく、日々成長するために学び、努力すること。自分の道は自分で切り開く。自分が成長すれば会社も発展して結果的に幸せになれる。」と伝えていますが、私自身も、この言葉を常に意識しながら日々の仕事に取り組んでいます。

そして、常にPDCAを心掛けることも大事ですね。若い人ほど活躍できる時間はたっぷりあるので、楽しみです。失敗を恐れずに取り組んでもらいたいと思います。

一 社長が考える会社の一番の財産は？

今年で創業107年を迎えます。この長い歴史の中で読者、著者、書店、取次、取引先など大変多くの方々からのご支援、信頼をいただきながら事業を継続することができています。

月並みではありますが、一番の財産は社員です。私のわがままを聞いて仕事をしてきている社員がいなくなると何もできませんから。そして、諸先輩方が残してくれた大きな財産があります。それは長い歴史の中での読者、著者、書店、取次、取引先からの貴重な信頼です。読者の求める良書を発行することを使命として、これからも読者からの視点を大切に、出版活動を続けていきたいと思っています。

一 本日はお忙しい中、貴重なお話を伺えてありがとうございました。

(2020年12月17日、インタビューアー：島 伸行・増田素美)

<会員社訪問 社長インタビュー No.4>

● 社長紹介 ●

【氏名】 ごらい まきや 牛来 真也（現職：理事（2009（平成 21）年～））



牛来社長

● 訪問社情報 ●

【社名】 株式会社 コロナ社（Corona Publishing Co., Ltd.）

【創立】 1927（昭和 2）年 1 月 1 日

【HP】 <https://www.coronasha.co.jp/>

【主な出版分野】 医学、理学、工学、農学

【詳細な出版分野】 電気・電子工学、情報科学（工学）、
機械工学、計測自動制御工学、建築・土木工学、
医用工学・生命科学、物理・数学、ほか

■ テーマ 1「本について」

－ 会社の転機となった本は何でしょうか？

創立当初は、もっぱら外国の本を翻訳出版して、徐々に知名度を上げていきましたが、転機となった本は、1930 年（昭和 5 年）に、当時東大の若き講師として活躍されていた星合正治先生（東大名誉教授・元日立中央研究所所長）と福田節雄先生（東大名誉教授）の共著の「電気工学原論」（全 3 巻）を発行したことです。本書は電気工学の全般にわたり、系統的に解説した当時としては類書のない斬新な内容であったため、学生や技術者に大変な反響を呼びました。初版発行から昭和 40 年代まで、実に 40 年の長きにわたり版を重ねること 35 版余、3 巻を通算した総発行部数は 20 万余に達しました。

この「電気工学原論」の成功が誘因となったかのように、これまでのような翻訳書のみならず、我が国の著名学者や技術者の著書が相次いで刊行されました。戦前の 10 余年間で 20 数版を重ねる書籍が多数発行されるようになりました。

－ 本が売れない時代、今後の本への可能性は？

自戒を込めてのコメントです。本が売れない時代になっているのは確かですが、そんな中でも専門書はまだまだチャンスがあるのではないかと考えています。専門書のいいところは、書き手と買い手が同じ領域（専門分野）ににいることです。言葉は適切ではないですが、例えて言えば、書き手という魚群探知機を頼りに、買い手という魚がたくさんいる所に釣竿をたかせば、近寄って喰いついてきます。もっとも、餌（コンテンツや宣伝方法）がよろしくなければ、魚は寄ってきませんが…。

ある意味、一般書より量は少ないものの狙うべく市場が見えることは、専門書の優位ではないでしょうか。

－ 社長にとって本とはどういう存在でしょうか？ またお薦めの本や愛読書などがありましたら教えてください。

小説本はほとんど読みません。一方で自分の趣味の造詣や興味を深める本や啓蒙書は読みます。そんな中で印象に残っている本は以下の 2 冊です。

「もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら」

これは当初、中身を見ずに、アニメチックなカバーデザインだけを見て、これは怪しい本だと思っていたのですが、とんでもない勘違いでした。一丁前にドラッカーのマネジメントの本を読んで勉強しようと購入したのですが、内容が難しすぎて読破できずにいたところ、この本と出会いドラッカーのマネジメント理論がすんなり理解できました。

「嫌われる勇気」

これは人に勧められて購入した本です。管理職になってコーチングを勉強し始めて、次第に心理学にも興味を持ち始めていたところに読みました。一方で人間関係に戸惑っていたころでもありました。この本を読んで、これまでの自分が思っていた価値観や人生観とは違う考え方があることを教えてくれました。この本に出会えて本当に良かったと思います。もっともこの本通りのことをしたら、本当に周りから嫌われてしまうとも思いましたが。

■ テーマ2「株式会社 コロナ社について」

一 会社の雰囲気をどのように感じていますか？

出入りの業者さん曰く、「社内の雰囲気は良いのでは？」とお褒めの言葉をいただくこともあります。自分の努力不足により、まだまだ理想とする会社の雰囲気になってはいませんが、出版社は突き詰めればアイデア勝負だと思います。このアイデアが各部署から湧水のように出て来て、それに果敢に挑戦でき、多少の失敗は看過し、その失敗を糧に再チャレンジができるような懐の広さを社員が感じられる組織でありたいと思います。

一 現在の社員やこれから入社してくる若い人へ期待や希望はありますか？

上司から与えられる事をするのが「仕事」。ではなく自分は会社に何ができるのかを考え、志と情熱をもって事にあたる「志事」をしてほしいです。

一 社長が考えるこの会社の一番の財産は何ですか？

「社員」、「社員の家族」、「著者」、「読者」、「お取引先」、「地元地域」の6つです。

■ テーマ3「過去・未来について」

一 社長になる前にはどのような経験をされてきたのでしょうか？

私は社長になる前は、入社以来ずっと編集畑にいました。しかし、大学は法学部卒業だったので、コロナ社の本の編集作業をしても、内容が全く分からず、面白くなかった時期もありました。

私が入社した1989年（平成元年）当時はグループ会社に活版印刷所を持っており、自分が初めて担当した本は活版印刷で組まれていた時代でした。今はコンピュータ組版により校正で多くの赤字が入っても簡単に直せますが、当時はページをまたがる赤字を入れたり、図面の縮小をすると印刷所の営業マンから「この、ど素人編集者め！」と怒られたものです。

また、私が入社した年は、工業高校の検定教科書の10年に一度の大改訂作業の真っ只中で、文部省（当時）への申請期限に間に合わないと、検定審査に合格しなくなるので必死でした。ほぼ毎日遅くまで残業をして、とうとう申請前日は徹夜作業になりましたが、これは後々の編集作業に多いに役立つ体験となりました。

一 2020年は世界そして日本にとっても大きな変化が起きていますが、今後本はどうなっていくと思いますか？

少子高齢化、活字離れ、ICTの導入などにより、本の作り方、流通、販売や読者のニーズ、はたまた働き方の変化はますます拡大していくことでしょう。一方で、今回の新型コロナウイルスの影響により、様々な生き方、働き方の価値観が変わり、さらなる変化のスピードは速まると思います。

当協会会員社が出版しているコンテンツは自然科学の知識の提供です。科学技術の衰えは、国家の存亡にかかわることなので、新しい自然科学の知識は必要不可欠なものであり、今後も日本の科学技術を支える一助であるべきと思います。出版物にかかわる労働者や読者のニーズ、出版流通、販売方法の変化を敏感に感じながら時代にあったコンテンツを提供していかなければならないと思います。

■ テーマ4「自然科学書協会の今後について」

ー 今後取り組みたいこと、期待していることは何でしょうか？

1996年の本の売上げのピークを境に、それ以前の時代と、出口の見えない右肩下がりの売上が続くその後の時代では、協会がやる事・求められる事はまったく違うのではないかと思います。

変化が著しく速いこの世の中で、中小企業出版社が多い協会会員にとって、本業をしつつ、単独で働き方改革の対応や読者のニーズ、ICTによる出版の在り方などの情報や知識を集めるのはなかなか厳しいものがあると思います。そういうことをテーマにした研修会や講演会の実施、あるいはガイドラインやマニュアルの整備等を協会から提言していただけるとうれしく思います。

ー 本日はお忙しい中、貴重なお話を伺えてありがとうございました。

(2020年5月20日、インタビューアー：新井明良・逸見健介)

販売・出展委員会活動報告

販売・出展委員会委員長 村上和夫

平素より会員各社様におかれましては当委員会活動へのご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。当委員会は今期より「フェア小委員会」「国際委員会」の二つの小委員会で構成されています。昨年は新型コロナウイルス感染症の大きな影響があり、制限せざるを得ない活動となりました。自然科学書フェアについては、当初の計画通り仙台市のジュンク堂仙台 TR 店で開催することができました。コロナ禍の中で棚詰め作業に出向くこともできませんでしたが、書店様のお力添えもあり無事に開催し、好評を博しました。

また、例年当協会として参加している北京ブックフェア（8月）、フランクフルトブックフェアについては実会場での開催は中止となりました。

2021年については、このような状況の中だからこそ、書店様を応援しつつ読者がより多くの自然科学書を手にとることができる機会としての「自然科学書フェア」を春秋2回開催することを計画しています。春にジュンク堂書店那覇店、秋に丸善津田沼店での開催を計画しています。また北京ブックフェア、フランクフルトブックフェアにつきましては、海外の動向を注視しながら準備をしていきたいと思っております。

引き続きご支援ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

著作・出版権委員会活動報告

著作・出版権委員会委員長 梅澤俊彦

・著作権法第 35 条（教育に関わる著作権法）の施行について

皆様ご存知のとおり、2020 年 4 月 1 日に 2021 年 5 月 25 日までに施行予定であった改正著作権法第 35 条（教育に関わる著作権法）が急遽施行されました。

利用者（学校設置者）が補償金を支払う事により授業目的の電子的な複製利用も無許諾・無償で行える様になる内容ですが、昨今の新型コロナウイルス対策で行われている各種学校の遠隔授業等に緊急的に対応するため、2021 年 3 月 31 日まで無償とする形式で施行されました。

2021 年 4 月 1 日から開始される従来の（補償金が支払われる）改正著作権法第 35 条の運用に向けて権利者、利用者また補償金の受け入れ機関となる一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会（SARTRAS）の関係者で具体的な運用指針、補償金分配方法が協議されています。また補償金で利用出来る範囲を超える利用に対するライセンス発行システムも JCOPY と SARTRAS の間で調整が進んでおり文化庁から認可を受けるための最終段階となっております。

・図書館関係の権利制限規定の見直しについて

2020 年 12 月 4 日に文化審議会著作権分科会法制度小委員会から「図書館関係の権利制限規定の見直し（デジタル・ネットワーク対応）に関する中間まとめ」が発表されました。この権利制限規定の見直し案は著作権法第 31 条 1 項 1 号及び 3 項に関するものですが、具体的には国立国会図書館や公立・大学図書館等で現在行われているコピーサービスに関して、さらに電子化資料を個人向けに E メール等を利用して公衆送信が出来る様にするという内容の法改正となります。現在、日本書籍出版協会では図書館権利制限対策プロジェクトチームを発足させておりますが、自然科学書協会からも委員が参加しており、この法改正に対する出版界としての対応に協力してまいります。

研修委員会活動報告

研修委員会委員長 吉野和浩

研修委員会の主な事業内容は、有識者をお招きして有益な知識や情報を提供する「研修会」と、科学技術の面白さや奥深さを一般の方に伝える「自然科学書協会講演会」ですが、2020年は世界的な新型コロナウイルス（covid-19）の流行があり、いわゆる三密を避け、感染拡大を防止する意味合いから、いずれも開催しないことといたしました。楽しみにお待ちになられていた方々には誠に申し訳ございませんが、特殊な状況を鑑みてご了承いただきたくお願い申し上げます。

新年を迎えても covid-19 の感染拡大は収束する気配をみせておらず、今年に、研修会と講演会を開催できるような状況になるのかどうか、まったくもって予断を許しません。研修委員の面々と連携をとりながら、研修委員会として何ができるのかを模索してまいりたいと思います。

引き続きご理解・ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

広報委員会活動報告

広報委員会委員長 曾根良介

広報委員会では、当協会の「会報」の制作・発行とホームページのメンテナンスを担当しております。

今期より今まで紙版で発行しておりました「会報」を電子版にリニューアルし、ホームページに掲載した後、会員社の皆様にはメールにてお知らせすることにいたしました。また新たに「会員社訪問 社長インタビュー」を企画スタートいたしました。

昨年のご承知の通り新型コロナウイルス（COVID-19）の影響で、当協会の行事もことごとく延期・中止となり会報に取り上げることもできなくて残念な結果となりました。

今年は4月より著作権法第35条の改正で権利制限が拡大され、補償金とライセンスの徴収が発生することになりました。また、総額表示も4月より実施しなければならなくなります（罰則はなし）。さらに昨年の新学期からオンライン授業の普及により、テキストの電子化が加速度的に増加する可能性があります。

そのような会員社にとって重要なニュースにつきましては、会報の電子化のメリットを生かし迅速に皆様にお知らせしたいと思います。

今後とも何卒よろしく願いいたします。

総務委員会活動報告

総務委員会委員長 池田和博

昨年は、新型コロナウイルス感染拡大のため協会の予定行事そのものが思うように開催できませんでした。総務委員会の関りとして一番大きな定例総会は、会員の皆様に議決権行使あるいは委任でのご参加をお薦めする異例の開催でした。その後の10月と12月の理事会の開催につきましては、金原理事にホストの労をお願いしてZoomでの開催というこれまでにない対応をしてきました。そうした状況であったことから、当協会としてZoomの契約を致しました。

新型コロナウイルスの感染が止んでいくことを祈るばかりですが、理事会や各委員会は、協会事務局がホストとなつてのZoom会議開催が可能となりましたので、その点を皆さまにお知らせ申し上げます。

さてそうした状況の中で年が明け、来期の事業計画と予算編成をしていく時期となってまいります。総務委員会といたしましては、事業計画・予算のスケジュールリングととりまとめを行い理事会に諮ってまいります。今後の理事会が対面での会議でもZoomで行われることになってもスムーズに進行していけるように務めてまいりたいと思っています。そして次に事業報告・決算、さらに来期は役選です。それを含めた理事会・総会の準備を進めてまいります。

今年の協会活動もコロナの状況次第ということになるかと思いますが、総務委員会としましては「協会の活動は活発に、財政は安定に」を念頭に協会活動を支えていきたいと考えております。会員各社様のご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

第70期理事会・委員会開催一覧（2020年9月～2021年3月）

●理事会

- ・ 9月17日（木）／文化産業信用組合
- ・ 10月22日（木）／オンライン方式（Zoom）
- ・ 12月 3日（木）／オンライン方式（Zoom）
- ・ 1月21日（木）／オンライン方式（Zoom）
- ・ 3月18日（木）／文化産業信用組合

●委員会

- ・ 10月21日（水）広報委員会／オンライン方式（Zoom）
- ・ 11月16日（月）販売・出展委員会 自然科学書フェア小委員会／文化産業信用組合
- ・ 12月21日（月）販売・出展委員会 自然科学書フェア小委員会幹事会
／オンライン方式（Zoom）
- ・ 1月20日（水）広報委員会／オンライン方式（Zoom）

※新型コロナウイルス感染状況により、例年12月に開催しております「年末会員懇親会」、1月に開催しております「会員報告会」「新年会員懇親会」も開催を見送ることになりました。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

編集後記

2021 年会報 Vol. 1 はいかがだったでしょうか。

「会員社訪問 社長インタビュー」は今回 2 本立てでお送りしました。

私は第 2 回を担当しました。初めてのインタビュアー経験でちゃんと質問できるのか？と考えると緊張しましたが、初対面にも関わらず気さくに面白いお話をたくさんお聞かせいただき、とても楽しい時間でした。

この「社長インタビュー」では各社の歴史や飛躍のきっかけ、お人柄、社内外への思いなどをお話しいただいていますのでとても興味深いものになっています。

さて、今年の箱根駅伝は駒澤大学の終盤での逆転で、往路・復路・総合優勝がそれぞれ違う大学になった、珍しい大会でした。昨年のコロナ禍で大会の開催自体が危ぶまれ、練習不足もあったにも関わらず、最後の追い上げ・追い抜きにはテレビで見ているととても盛り上がりました。

コロナ禍で先行きが分からない中、あきらめずに続けたところは自分も見習わないとなぁと思った 1 月 3 日でした。

2021 年 1 月 18 日
広報委員：山田貴史